

★螿蛄（けいこ）春秋を識らず

本格的な夏の到来とともに、お寺の庭先では朝早くから蝉しぐれが聞こえてきます。今を盛りに鳴く蝉の声を聞くと私はいつも「螿蛄春秋を識らず。豈に伊虫、朱陽の節を知らんや」という言葉を思い出します。

これは中国の荘子の言葉だと思いますが、その意味は「蝉（螿蛄）は、春や秋という季節を知らない。春や秋を知らない蝉にとって、今が夏だということをどうして知ることが出来るのか」ということです。

そうですね。夏に生まれ夏に死んでいく蝉は、他の季節（春、秋、冬）を知りません。それどころか、今が夏だということも知りようがないのです。今が夏だと分かるのは、他の季節を知って初めて分かることです。

仏教では私たち人間は「迷いの世界」にいると教えています。

ところが、私たちは一向に迷いの世界にいるという自覚がありません。「この世がすべてじゃ。死んだらしまいじゃ」と思っています。これでは蝉と何ら変わりません。

迷いの世界にいながら迷っていることに気付かない。そんな愚かしい日暮を続けている私たちを哀れんで「目覚めて下さいよ。迷ってますよ」と、我が心を揺さぶり続けている声が「南無阿弥陀仏」なのです。

それは「悟りの世界」からの呼びかけです。その世界からの働きかけがなければ、私たちは到底「迷いの世界」にいることを自覚することはありません。

真実なるもの（悟りの世界）に照らし出されて初めて虚仮不実（ウソ偽り）の我が身が見えてくるのです。見えれば「至らぬ我が身だな」と頭が下がるのです。その時、私たちは迷いの世界にいながら、迷いの世界を超えた世界を知ることが出来るのです。

真剣に謙虚に、お念仏のみ教えを聞かせて頂くことによって、初めて開かれる世界です。

平成15年8月 「光明寺だより29号」より